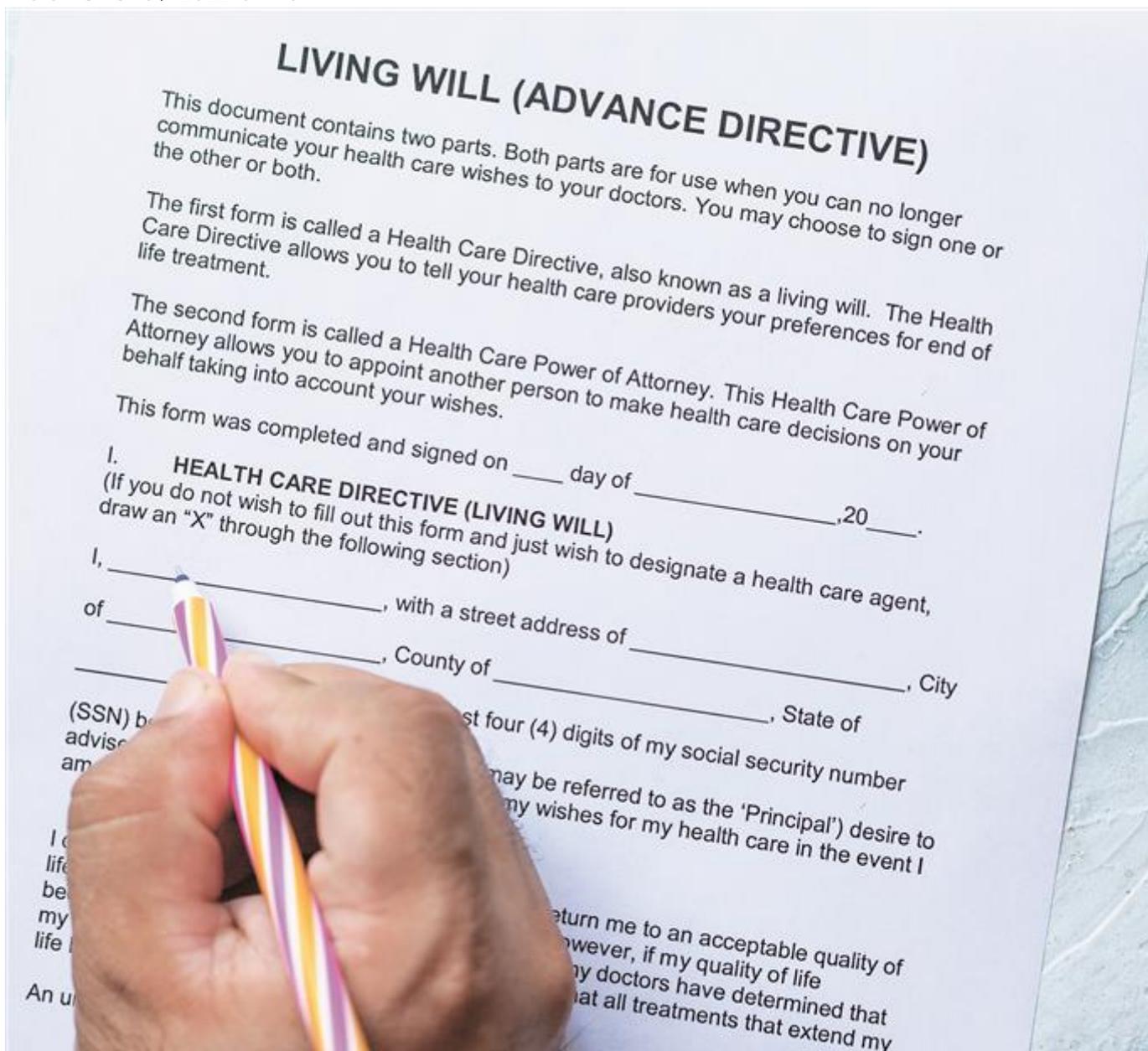


SHINE ニュース / 焦点
人工生命維持装置なし 安らかに尊厳を持って死にたい

タン・ウェイユン
13:31 UTC+8、2022-07-10



中国南部の都市、深圳は、末期患者が「過度の救命治療」を拒否し、尊厳と安らぎをもって死ぬことを認める法律を制定した中国初の管轄区となった。

来年1月1日に施行される広東省深圳市の新法は、多くの国では当たり前になっていることだが、不治の病に苦しみ、人生の終わりに近づいている人々は、どのように死ぬかを定める権利を持つことになる。

先月可決された市の医療規則の改正草案によると、末期疾患または人生の終わりにある患者は、延命のための心肺蘇生や経管栄養などの人工的な生命維持措置を拒否する事前指示書またはリビングウィルを作成することができる。

死ぬ権利の法制化については多くの国で、終末期の迎え方を選択できるという倫理についての議論が巻き起こっています。中国も例外ではありません。深圳の新しい法律は、ソーシャルメディアで全国的な議論を巻き起こしています。

自分の意思を尊重するこの法律を私は支持します。これは大きな法律上の前進です。しかしもちろん、施行規則にも注意を払い、不適切に利用される可能性のある条文の抜け穴を回避する必要があります。
Weiboユーザー

「人々は自由に生き、尊厳を持って死にましよう」と投稿したあるネチズンのコメントには、約 1,100 の肯定的な反応がありました。「ひどい痛みを苦しんでいる患者にとって、新しい規則により、最期の日々の苦しみが軽減されます。」

別のWeiboユーザーはコメントで、「自分の意思を尊重するので支持する。これは法的な大きな改善だ」とコメントしている。「もちろん、施行規則にも注意を払い、不適切に利用される可能性のある条文の抜け穴を回避する必要があります。」

他の人たちも、リビング・ウィルが、そのような指示に同意しない医療スタッフや家族によって悪用される可能性があるという懸念を表明しています。事前指示書には証人2名の署名が必要です。

議論の中心にあるのは、患者が人生の最終段階にあるかどうかを判断する方法です。

深圳市人民代表大会常務委員会法務委員会副主任の林正茂氏は「何よりもまず、医療機関による医学的判断だ」と述べた。「それは、患者が考えていることでも、患者に近い人が考えていることでもありません。」

新たに可決された医療規則は、人がまだ意識があり、完全な精神能力にある間に署名された文書を必要とします。文書には、終末期が近づいたときに患者が生命維持に関して何を望んでいるかを明記する必要があります。

深圳市は昨年3月、リビングウィル推進協会を設立した。文書、ビデオ、または音声録音の形で、家族への指示を含めたリビングウィルを作成するためのチャンネルを人々に提供しています。

新しい規則は、家族と医療スタッフの両方の精神的苦痛を和らげることができます。

生命と親孝行を重んじる中国の伝統により、死が避けられない場合でも、子供たちは親のために可能な限りのあらゆる治療に同意することがよくあります。

医療従事者も、自分が不快な立場に置かれることがよくあります。

深圳市人民病院の副院長であるリャン・ジェン氏は、「事前指示書により、医師は生命維持装置をつけたままではなく、ただ安らかに死にたいという患者の希望に応じて行動することができます。「それは患者の権利と利益を保護し、医療紛争を回避するのに役立ちます。」



Imaginechina

事前指示書が発効する前に、患者の身体的および精神的状態の両方の専門的な評価を実施する必要があります。

「患者の自主的な決断が最も重要です」と リャン氏は言います。「患者が強制されたり、過度に影響を受けたりしないように確認する必要があります。」

決定に家族を巻き込むことは重要であると、北京大学衛生人文科学院の医療倫理法学ワン・ユー教授は述べています。

「家族会議を通じ、事前指示書を皆が認めて合意に達する方がよいでしょう」と彼は言いました。「将来の紛争を避けるために、プロセス全体をビデオに記録する必要があります。ミーティングを行うことで、患者だけでなく家族も尊重します。」

西側諸国では、死ぬ権利の事前指示を「自発的な安楽死」と呼ぶこともあるが、中国当局は、この用語はここでは不適切だと述べた。安楽死は、末期患者が自分の選択した時点で主観的に自らの命を絶つ権利があるが、中国では違法であり、多くの諸外国と同様です。

死ぬ権利を実際に行使することは、中国ではしばしばみられましたが、法律上、重要視されてきませんでした。

2016年に94歳で亡くなった有名な上海の漫画家 He Youzhi氏は、「ゆっくり年をとり、はやく死にたい」とよく冗談を言っていました。晩年、彼の妻は夫との会話を思い出し、夫の食道切開治療を拒否した。

「彼に意識があり、精神的にも健全であった時、死が避けられない場合は彼を救わないようにいつも私に言ったので、私はノーと言った」と彼女は言った。「彼には安心してこの世を去ってほしかった。」

リビングウィルは、事前指示書として1967年に米国で最初に提案され、最も歴史があり

ます。2020 年のギャラップ世論調査では、アメリカ人のリビングウィル保有率は2005 年の 40% から増加して、45% になったことがわかりました。

出典: SHINE 編集者: Xu Qing
Google翻訳をもとに協会訳。